

消費税であれ、所得税であれ、納税者には、自分が払う税金はコスト(費用)です。しかし、経済学的にいえば、コストではありません。割り切った考えれば、税金の支払いというのは納税者のポケットから政府のポケットへの移動にすぎないからです。この税金は公共事業であれ社会保障であれ、何らかの形で経済(国民の間)を循環します。まさに「金は天下の回りもの」です。少なくともお

税金を巡っては公平・不公平が多く論じられています。でも、税の公平性とは何でしょうか? 実のところ公平の基準は一つではありません。大きく分けると2つの原則があります。支払い能力のある人が多く税を払うことが望ましいとするもので、「応能原則」と呼ばれます。所得税などはこの考え方です。もう一つは、ゴミの収集など公共サービスは所得に関係なく誰もが受けるので、サービスを

京都の古い家の間口がなぜ狭いかご存じでしょうか? 古い町並みの風情を感じますが、そもそも江戸時代に間口の幅に応じて税を課す「間口税」があったためとされています。税金を避ける庶民の知恵が正面を狭く奥行きのある家を生み出したのです。フランスの古い建物の中には窓が少なく、代わりに窓の絵を壁に描いたものがあるとか。これはフランス革命直後にできた戸や窓に課税する「戸窓

シリーズを通じて税金の経済的な意義についてみてきました。一般に思われるほど、この問題はズバツと論じられないことが分かります。税金は難しい」という印象を持ったならば、例外、それが正解なのです。これまででは税金を巡り、経済的論理より政治的な都合(「政治主導」?)が優先されてきました。しかし、政治的に都合が良い税制が経済的に好ましいわけではありませ

ニュースを読み解く やさしい経済学

第1章 税の仕組みと本質 一橋大学教授 佐藤 主光
金(経済学的には資源)が失われたわけではありません。では、税金の真のコストとは何でしょうか? キーワードは「逸失利益」です。これは、仮に税金がなければ生じていたはずの利益を指します。事業への課税を例に説明しましょう。今、2億円の収入になる事業Aと1億円になる事業

ニュースを読み解く やさしい経済学

第1章 税の仕組みと本質 一橋大学教授 佐藤 主光
受ける全員が負担する「応益原則」という考え方です。自治体の財源となる地方税は後者が重視されてきました。地方税のひとつ、個人住民税には均等割という定額課税があります。現在は年間4000円ですが、4万円に引き上げたらどうでしょうか? 応能原則でみれば、所得に関係

ニュースを読み解く やさしい経済学

第1章 税の仕組みと本質 一橋大学教授 佐藤 主光
税」の影響といわれます。税金は人々の行動に様々な誘因効果を及ぼします。所得税が高くなると、一生懸命に働いて所得を稼いだり、リスクをとって起業したりする意欲が損なわれるかもしれません。もう一つ、税金で取られますから、誘因効果は税金の副作用といえますが、中に

ニュースを読み解く やさしい経済学

第1章 税の仕組みと本質 一橋大学教授 佐藤 主光
不公平や非効率が増すうえ、経済の成長機会を奪ってしまふこともあり得ます。様々なレトリックも横行しています。例えば、国会議員の定数の見直しなど「増税の前にすべきことがある」というのはもっともらしいですが、増税を避ける口実にも使われかねません。

本当の経済コストは?

赤字になってしまします(上表)。課税されると、Aは実施されませんがBは見送る「誘因効果」が働くことになるので、企業はBを見送ります。税金のコストはAの8千万円だけです。ところが、経済学的にみると、Aの税金は

| | 事業A | 事業B |
|---------------|--------|-------|
| 収入 | 2億円 | 1億円 |
| 投資額 | 8千万円 | 8千万円 |
| 利益(収入-投資額) | 1億2千万円 | 2千万円 |
| 課税額(収入の40%) | 8千万円 | 4千万円 |
| 課税後利益(利益-課税額) | 4千万円 | -2千万円 |

公平の判断 難しく

スの財源確保ならば応益原則を選ぶことになり。再分配を重視するとして、次の2点に注意が必要で、第1に課税だけで再分配は完結しません。所得税の最高税率を引き上げお金持ちから税を多く徴収し、低所得者に移転しないとけません。第2は支払い能力の基準です。消費税が逆進的とされるのは、「年間所得」に占める消費税支払額の比重が低所得層ほど高いからです。でも、年間所得は支払い能力を正しく反映しているでしょうか? 今日の金持ちが明日もそうとは限りません。とすれば、支払い能力は生涯を通じて稼げる所得が妥当でしょう。生涯の所得と費やす消費はおおむね等しくなります。今日の貯蓄も将来の消費に備えたものです。消費税は生涯ベースの課税とも言えます。いずれにせよ税の公平とは難しいもの。安易に不公平と叫ぶべきではないでしょう。

文化を変えることも

が安いことが魅力です。これは税金が違うからです。わが国の酒税は成分によって税率に差があります。第三のビールなどは成分がビールと若干異なるため、税率が抑えられるのです。結果、メーカーがビール以上に「ビールと間違える」お酒の開発・販売にしのぎを削っています。長い目で見れば、日本のビール文化を変えていくかもしれません。所得税も勤労意欲を損ね、人々の「安定志向」を

真摯に現実を直視

める税は低所得者に対して不公平との批判も多くあります。でも、このことは、中間層など他の所得層が課税を免れる理由にはなりません。今求められるのは、現実問題を直視する真摯さでしょう。我が国の税財政は、対外的には経済のグローバル化と企業や資本を誘致するための税率優遇競争の激化、国内では人口の高齢化による社会保障費の増加といった困難に直面しています。「成長さえ